

はまな

No. 560 平成 29 年 11 月

静岡県水産技術研究所浜名湖分場

〒 431-0214

静岡県浜松市西区舞阪町弁天島 5005-3

TEL 053-592-0139 FAX 053-592-0906

<http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/hamanako>

e-mail: suigi-hamanako@pref.shizuoka.lg.jp

目 次

平成 29 年漁期トラフグ漁はじまる	□ □ □ 1
水産用抗菌剤購入時の制度が変更されます	□ □ □ 2
浜名湖のアサリ漁業者が天然採苗を行っています	□ □ □ 4
浜名湖で新たに記録されたさかなたち	□ □ □ 5
体験学習施設『ウオット』より	□ □ □ 6

平成 29 年漁期トラフグ漁はじまる

吉田 彰

1 平成 29 年漁期のトラフグ漁獲量を前年並と予測

浜名湖分場では、漁の開始に先立つ9月に、平成 29 年漁期（平成 29 年 10 月～平成 30 年 2 月）の県内トラフグ漁獲量を前年並*の 16.3 トン（前年比 92%）程度、1 歳魚（平成 28 年級群）が主体と予測しました。この予測は、前年の愛知県・静岡県

を基にしたものです。図 1 に、平成 20 年漁期以降におけるトラフグ漁獲量について、予測値と実際とを対比して示しました。ご覧のとおり、予測値は過去 9 カ年における経年変動を概ね説明できていることがわかります。*前年並：前年比 90～110%

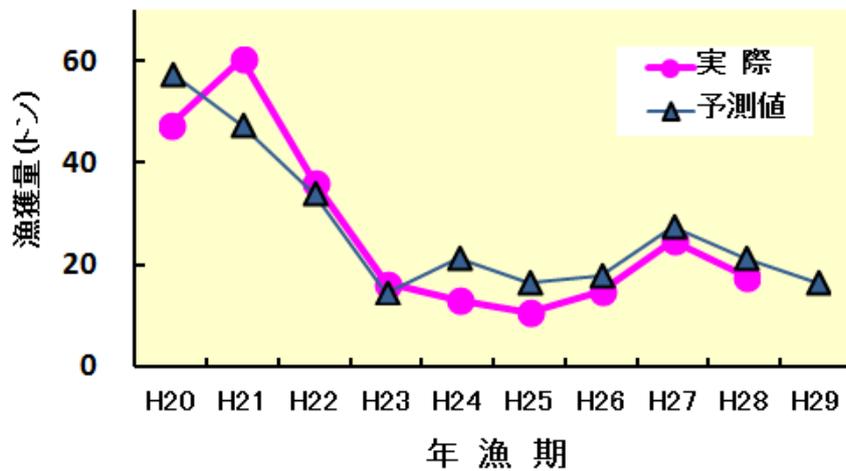


図 1 静岡県トラフグ漁獲量
(平成 20 年漁期以降の予測値と実際の漁獲量)

2 平成 29 年 10 月の漁獲量は前年並で 1 歳魚主体

図 2 は、10 月に舞阪市場（浜松市：本県のトラフグ水揚げの中心）で行った、市場調査の様子です。漁業者・流通関係者の御理解の下、水揚げされたトラフグの全

長のほか、三重県有滝放流群に施した胸鰭カット、放流魚に出現する鼻孔隔皮欠損の有無等を調べています。



図 2 舞阪市場におけるトラフグ市場調査

図3に、10月におけるトラフグの全長組成を前2年と対比して示しました。平成29年10月の漁獲の主体は、27年漁期に比べると割合は少ないものの、予測どおり1歳魚でした。

また、本年10月の県内トラフグ漁獲量は前年並の4.4トン(前年比98%)で、過去5ヵ年平均比95%でした。同月の1隻あたり漁獲量は19.2kg/隻で、前年の14.0kg/隻を上回り、前々年の18.6kg/隻と同等でした。この理由の一つとして、例年漁獲の主体となる、1歳魚の割合が低水準ながら前年より多いことが考えられました(図3)。一方、同月の単価は5,521円/kgで、前年の5,979円/kgをやや下回りましたが、前々年の4,699円/kgを上回りました。この理由の一つとして、単価の高い2歳魚(平成27年級群)以上の大型魚の割合が前年よりやや少なく、前々年より多いことが考えられました(図3)。

このような、漁況と魚価との関連の中で、10月の1隻あたり漁獲金額は101千円/隻となり、約85千円/

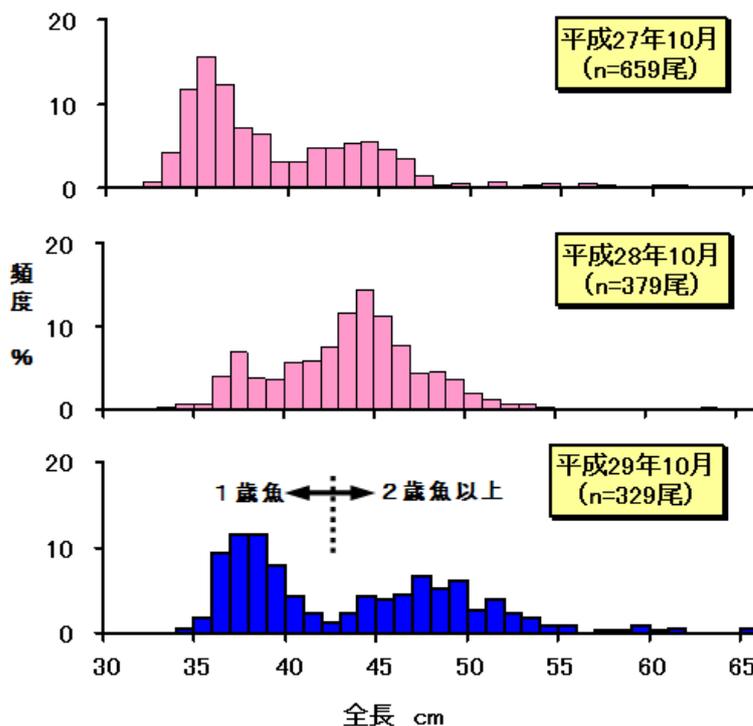


図3 舞阪市場における10月のトラフグ全長組成

隻であった前2年をやや上回りました。11月以降も各船の漁獲金額が安定し、秋冬の浜の賑わいに繋がれば何よりと思います。

3 持続的なトラフグ漁業のために

平成28年漁期の漁獲金額は、近年では堅調であった魚価が漁獲量の減少を補う形で、27年漁期を上回りました(本誌558号「平成28年漁期のトラフグ漁を振り返る」)。これは、上記のように、大型魚の割合が多かったことが関係していると考えられます。そして、漁獲物中の大型魚の割合を高めるには、比較的魚価の安い1歳魚の獲り控えを引き続き積極的に行っ

ていくことが重要ではないでしょうか?

浜名湖分場では、漁期前の予測の検証のほか、トラフグ伊勢・三河湾系群の資源評価、放流効果調査の基礎資料とするため、漁期中を通じて舞阪市場でのトラフグ測定等を行います。これら調査結果を、トラフグ漁が持続的に営まれていくための提言に活かしていければと考えています。

水産用抗菌剤購入時は指導書が必要になります

水越 麻仁

平成30年1月から、水産用抗菌剤の購入時に、県水産技術研究所が交付する指導書が必要となります。

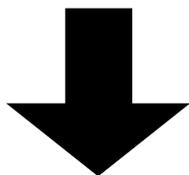
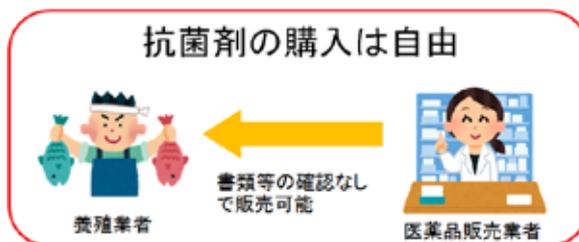
これは、世界的に問題となっている薬剤耐性菌による被害を防ぐために、平成28年4月に国が決定した「薬剤耐性対策アクションプラン」に基づく取組の一環で、抗菌剤の適正な使用を促し、薬剤耐性対策を強化することが目的です。

対象となるのは、食用として養殖される魚のほか、

釣り堀や放流用など、食用となる可能性がある水産生物に投与する水産用抗菌剤全てです。ニシキゴイやキンギョなどの観賞魚に投与する場合や、抗菌剤ではない消毒剤や駆虫剤等は対象外です。

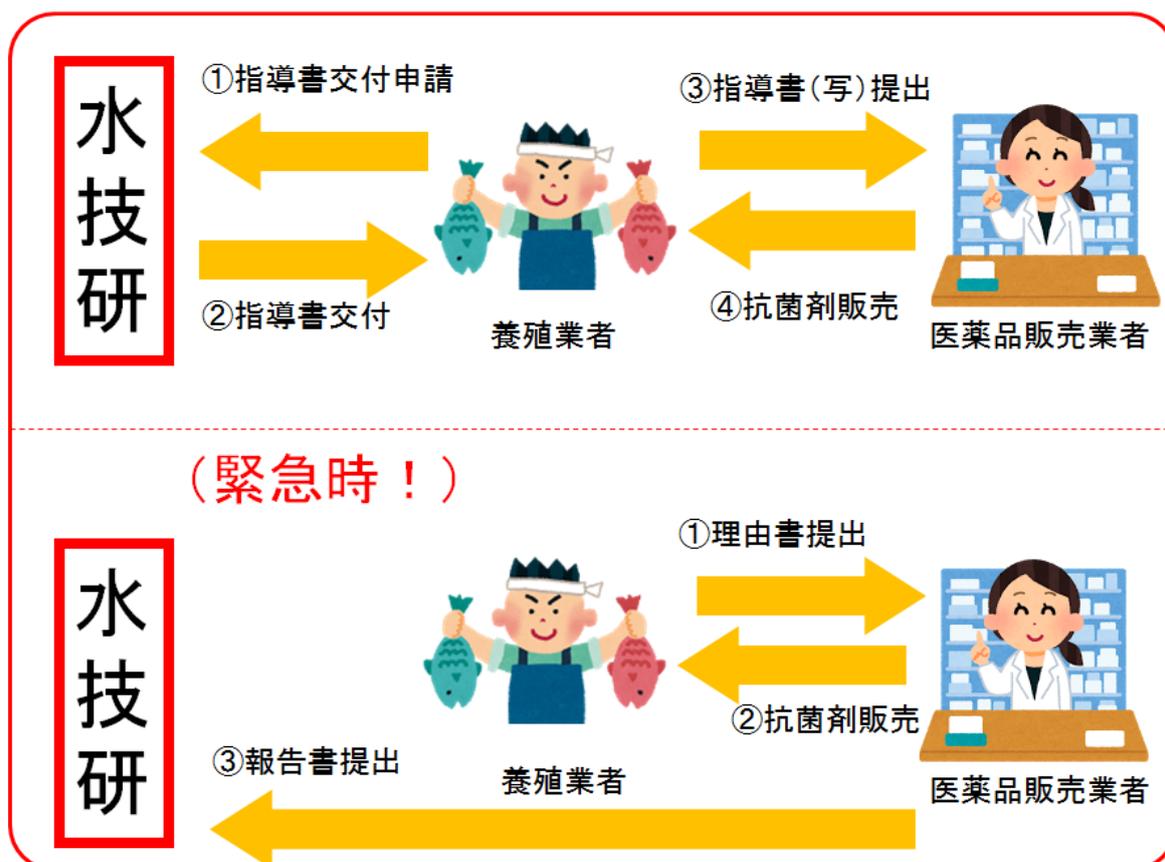
指導書の交付手続きは、養殖場の所在する都道府県が対応します。本県では、水産技術研究所が窓口になります。抗菌剤購入までの流れは次ページの通りです。

これまで



これからは

- ① 養殖業者は提出書類を用意し、水産技術研究所に指導書の交付を申請します。
- ② 水産技術研究所は、提出書類に問題がないことを確認し、養殖業者に対し指導書を交付します。
- ③ 養殖業者は、指導書の写しを医薬品販売業者へ提出すると、抗菌剤を購入できます。



現在、県では関係される方に向けた説明会を実施しています。前述の「アクションプラン」の概要については、農林水産省消費安全局のホームページでも確認

できますが、必要な提出書類の種類や提出時期など手続きの詳細については、当分場まで御相談下さい。

浜名湖のアサリ漁業者が天然採苗を行っています

今中 園実

アサリの天然採苗は、網袋に砂利などの基質を入れた「採苗袋」を海底に設置し、袋の中にアサリの稚貝を着底させて得る技術です。浜名湖のアサリ漁業者が加入する浜名漁業協同組合採貝組合連合会（以下、採貝連合会）では、アサリ資源増大のための取組の1つとして、浜名湖内での天然採苗を平成25年から実施しています。

今年は、採貝連合会の役員約30名が6月中旬に採苗袋3,000袋を作成し、昨年度の採苗結果が良好だった、浜名湖南西部の新居沖（競艇場付近）に設置しました。採苗袋は、設置後しばらく置いておくと、流砂などで埋没したり、海藻などが付着して採苗の効率が下がってしまうので、漁業者は2か月に1回ほど、

埋没対策の裏返しや付着物除去などの管理を行いながら採苗を続けています。

9月上旬に、本年初めての採苗数チェックを行いました。その結果、平均で58個体/袋、最高で83個体/袋のアサリが得られました。昨年度に2,000袋を設置した雄踏沖では、同じ時期の平均採苗数が28個体/袋でしたので、今年は効率よく採苗ができていると考えられました。

浜名湖のアサリは、昨年秋に大量へい死が起こって以来資源量が低迷し、とても厳しい状況が続いていますが、漁業者による取組が、資源回復の一助となることを期待したいです。



採苗袋を作成



採苗袋を湖内に設置



設置した採苗袋



海藻が付着した採苗袋（設置2か月後）



採苗袋の管理（裏返し作業）



1袋で採苗できたアサリ（9月）

浜名湖で新たに記録されたさかなたち

今中 園実

ウニ類 No. : 8 ヒラタブンブク

(*Lovenia elongata*)

採捕月日 : 2017年11月27日

採捕場所 : 浜名湖・鷲津沖

全長 : 約7cm

厚みがなくやや細長い形で、「ウニ」と聞いて想像する生物とは、かなり違う姿に見えるかもしれません。名前の「ブンブク」は、昔話に出てくる「文福茶釜（ぶんぶくちやがま）」を連想させる形に由来します。ウニの仲間のうち、「ブンブク目」というグループに属しており、この仲間はみな本種と同じく、昔話の茶釜のような、やや平たくて毛のような棘に覆われた姿をしています。平たい形で食べられる部分が少ないので、食用には向いていません。

本種は、房総半島以南の日本沿岸から、インド洋・西太平洋まで広く分布しています。本種をはじめとするブンブク目の仲間は、水深が浅い海岸で砂に潜って生息しているので、アサリ漁業や網漁業を行う漁業者には時々見られているようです。今回の本種も、鷲津沖で漁業者により発見されました。



体験学習施設「ウォット」より

★「ウナギのパクパクタイム」を始めました！★

ウォットでは9月から新イベント「ウナギのパクパクタイム」(ウナギの餌やり見学)を開催しています！

このイベントでは、エサに群がる、普段とは違った姿のウナギを観察することができます！また、餌やりの見学だけでなく、スタッフがウナギについて解説をしたり、お客様がウナギのエサの臭いをかいだり触ったりすることができます。

なお、12月16日(土)から1月8日(日)までウナギ展も開催します♪こちらでは、外国産のウナギ

など、普段はなかなか見られない、珍しいウナギを見ることができます。

ウナギがいっぱいの冬のウォットに、ぜひ遊びに来て下さい！
(ウォット職員 青木 窓菜)

☆☆ウナギのパクパクタイム☆☆

月曜、木曜を除く開館日に実施しています。

毎日 15:00～15分程度です。



エサに群がるウナギの迫力が好評です！



ウナギのエサを近くで見ることができます

★★イベント案内(要予約)★★

<体験教室(要予約)>

○君の力で大へんしん！かいがらクラフト教室

浜名湖の貝殻を使って工作します。

日時：1月6日(土)、2月17日(土)

いずれも10:30～11:30 各回定員10名

○ノリのあれこれ大発見！(子供学芸員研究部門)

浜名湖のノリについて紹介します。

日時：2月3日(土)10:30～12:00 定員10名

○お魚さんが待っている！エサやり体験

(子供学芸員飼育部門)

「ウォット」のお魚さんに餌をあげてみましょう！

日時：2月10日(土)10:30～11:30 定員10名

○ドキドキ！裏側探検ツアー(子供学芸員解説部門)

クイズに挑戦しながら、「ウォット」の裏側を見学します。

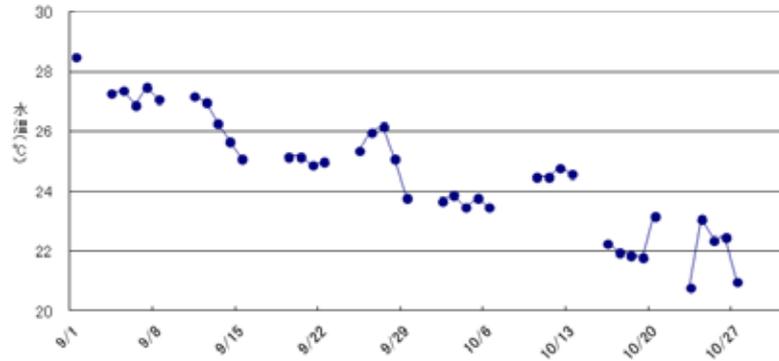
日時：2月24日(日)10:30～11:30 定員10名

*本コーナーに関するお問合せ、お申し込みは

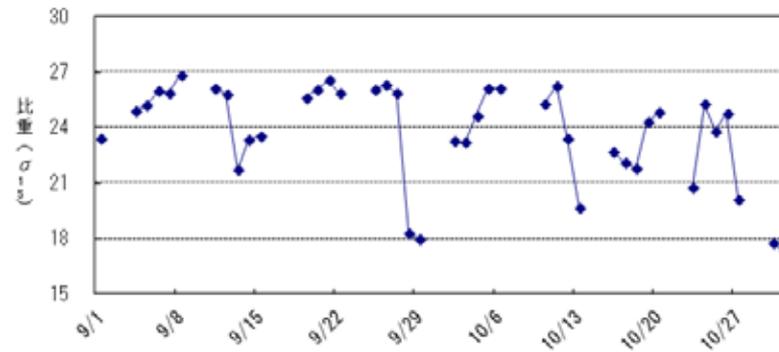
ウォット(TEL:053-592-2880)をお願いします。

弁天島の水温・比重（平成 29 年 9 月～ 10 月）

水温の変動



比重の変動



水温 (°C)	9月				10月			
	上旬	中旬	下旬	月平均	上旬	中旬	下旬	月平均
2017年	27.5	26.0	25.2	26.2	23.9	22.9	20.7	22.5
平年 (過去10年平均)	27.2	27.0	25.5	26.6	24.2	22.9	21.9	23.0

比重 (σ15)	9月				10月			
	上旬	中旬	下旬	月平均	上旬	中旬	下旬	月平均
2017年	25.4	24.6	23.9	24.6	25.0	22.7	21.4	23.0
平年 (過去10年平均)	25.2	21.2	22.2	22.8	25.1	24.9	24.5	24.8

分 場 日 誌（平成 29 年 9 月～ 10 月）

29 年 9 月

- 4 日 地理的表示制度セミナー（静岡）
- 8 日 県ふぐ漁組合連合会組合員会議（静岡）
- 12 日 定点観測（浜名湖）
- 13 日 京都府漁協視察来場（当場）
- 15 日 静岡うなぎ漁協鰻供養祭（吉田町）
漁業士と行政との意見交換会（当場）
- 21 日 浜名湖水産物活性化作業部会（舞阪）
浜名漁協ふぐ組合出漁前会議（舞阪）
- 25 日 農商工連携会議（浜松）

29 年 10 月

- 3 日 浜名湖水産振興協議会幹事会（舞阪）
- 11 日 定点観測（浜名湖）
- 12 日 下りウナギ放流事業全体会議（舞阪）
- 13 日 県漁業士役員会（静岡）
- 17 日 移動知事室（浜松）
- 18 日 水産庁委託事業ヒアリング（当場）
- 24 日 薬事監視員講習会（東京）
- 25 日 県養鰻協会研修会（浜松）